

No.108 2017. 12. 25 ^{あおじゅかい} 会報「青樹会」 会報事務局 〒331 - 0825

中国内モンゴ沙丘・草原緑化研究会 さいたま市北区櫛引町 2-574-2 GA 大宮 111 号
代表 押田 敏 雄 押田 敏 雄 方(青樹会事務局長代行)

(Tel & Fax 048 - 664 - 5884)

<http://www5a.biglobe.ne.jp/~aojukai/>

e-mail:oshida@azabu-u.ac.jp

1. 「総会」が開催されました

去る 5 月 27 日(土)に「青樹会」の総会が開催されました。今回は総会と記念誌発刊祝賀会も兼ねての集まりでした。参加者は中村(民)、野上、石川、西、樋川、窪田(定)、立野、近田、中川、窪田(誠)、中村(千)、押田(照)、押田(明)および押田(敏)の総員 14 名でした。全会員の 1 割と言ったところでしょうか？

今回は先ず、押田事務局長の挨拶(恒例の西代表は所用で遅れての参加)、各自の近況報告、そして総会に移りました。全体の司会は中村(民)さんをお願いしました。そして、記念誌の発刊を受けて、各自の感想も発表して戴きました。



左から、押田(敏)、窪田(定)、窪田(誠)、中村(千)、近田、野上の各位



左から、立野、中川、石川、押田(照)、押田(明)、樋川、中村(民)の各位



2. 「2017 年度総会」報告

総会当日の配布資料(抄)を再掲載致します。意見や疑義がある場合には事務局代行まで!!

<平成 28 年度(2016 年度)会務報告> 2016.4.1~2017.3.31

1. 概要

中国は2013年以来「一帯一路」構想を示し、その実現に乗り出しつつある。「一帯一路」構想とは、「シルクロード経済帯」(中国語で絲綢之路經濟帶)と「21世紀海上シルクロード」(同21世紀海上絲綢之路)を合わせて、中国と中央アジア、南アジア、西アジア、東南アジア、中東、欧州とを陸路と海路でつなげて一大経済圏を構築しようとする壮大な構想である。



習近平国家主席は2013年9月にカザフスタンを訪問した際に「シルクロード経済帯」構想を、同10月にインドネシアを訪問した際に「21世紀海上シルクロード」構想を、それぞれ打ち出した。2013年11月には、中国共産党第18期3中全会で「シルクロード経済帯と海上シルクロード建設を推進する」ことが提起された。そして2015年3月には、国务院の委託により、国家発展改革委員会・外交部・商務部が共同で「シルクロード経済帯と21世紀海上シルクロードの共同建設推進のビジョンと行動」(以下、「ビジョンと行動」)を公表した。これにより、「一帯一路」構想は中央政府主導の構想であることが明確になった。

「一帯一路」構想がカバーする沿線国は64か国に上ると言われ、中国と合わせた計65か国で人口が45億人(世界の63%)、GDPが23兆米ドル(世界の31%)と広大な経済圏が生まれる可能性がある。

「一帯一路」構想の潜在的な意義としては、中国が主導してアジア諸国をインフラや貿易・投資でつなげて各国の経済発展を促そうとするものであり、それ自体は国際社会として歓迎すべきものである。中国がその拡大する経済力、金融力をアジアのインフラ構築、連結性強化、経済発展という国際公共財の提供のために用いるとすれば、それは望ましいからだ。その一方で、中国はアジアにおける経済的・政治的・地政学的な影響力を拡大させるための外交上の道具の一つとして「一帯一路」構想を掲げているのではないか、中国中心の経済圏づくりを通じてTPPなど米国中心の国際経済秩序に挑戦しようとしているのではないか、といった懸念が持たれている。

中国は「一帯一路」構想の理念として、「平和協力、開放と包容、相互学習、相互利益とウィンウィン」という4つを掲げ、実務的な協力を全方向的に推進し、「政治の相互信頼、経済の融合、文化の包摂」を実現する利益共同体・運命共同体・責任共同体の構築を呼びかけている。また、共同原則として、国連憲章の原則に基づくこと、市場ルール・国際通商ルールに従うこと、市場が資源配分において決定的作用を及ぼすこと、しかし同時に政府の役割も発揮させること、共同利益とWinWinの追及を確認している。

寇振武先生が良く言われていた「西部開拓」というフレーズがありますが、これはまさに「一帯一路」構想の布石であったことが、今になって良く理解されます。

今後の日中の関係を続けるのにあたり、「一帯一路」は注視しなければならない重要なWordです。



2.活動報告

青樹会の活動は次のとおり。

(1)イベント・打合せ等の活動

年月日	活 動	会報掲載
28/5.17~26	中国科学院瀋陽応用生態研究所・蔣徳明教授来日	104号&105号
5.21	総会(八重洲倶楽部)。17名参加。	105号
29/1.14	映画「妻への家路」鑑賞会と新年会開催(八重洲倶楽部)。15名参加。	106号&107号
3.6	記念誌編集打合せ(日本食肉消費総合センター)。4名参加。	
4.24	記念誌編集打合せ(日本食肉消費総合センター)。3名参加。	
5.19	会計監査	

(2.)会報の発行(4回)

No104(28. 4.15 発行)、No105(28.6.11 発行)、No106(28.12.13 発行)、No107(29.4.14 発行)

3. 収支決算書(会計報告) 2016.4.1~2017.3.31

1.一般会計

(円)

区 分	金 額	備 考
前年度繰越金	492,730	
収 入	会員会費	105,000 35名分
	協賛金	0
	募金	31,000 募金6名
	受取利子	123
	計	136,123
支 出	研究会立替金支払	176,922 2016年度会場費、会報発送費用
	会場借用料	32,080
	通信費	54,392 メール便、ハガキ
	雑費	0
	計	263,394
収支差額	-127,271	
① 年度繰越額	365,459	

2.緑化募金会計

(円)

区 分	金 額	備 考
前年度繰越金	465,000	
当年度収入	0	
当年度支出	0	
当年度収支差額	0	
②次年度繰越額	465,000	

3. 現金預金残高照合

(1)年度末残高:(①+②)

830,459 円

(2)残高照合(2017.3.31)

(円)

区 分	金 額	備 考
現 金③	153,535	
郵便貯金口座④	201,924	29.3.31 残高(別添写しA)
郵便振込口座⑤	475,000	29.3.31 残高(別添写しB)
合 計	830,459	② ④+⑤

<会計監査報告>

私たち監事は青樹会の2016年度(2016年4月1日から2017年3月31日まで)の会計監査をいたしました。収入の部、支出の部いずれも適切に処理されておりますことを確認いたしました。以上、会員の皆様にご報告申し上げます。

2017年5月19日

監事 埼玉県三郷市早稲田 1-25-2 丸山和也(印)
千葉県我孫子市泉 28-7 中村千由(印)

<平成 29 度(2017 度)会務方針> 2017.4.1~2018.3.31

1. 概要

20 年の長きに亘っての烏蘭敖都村での緑化活動は一定の成果を見た。「我々の活動が沙漠緑化の何らかの起爆剤になったのでは」と言った自己満足的と思われそうな評価の仕方には間違いはないものと確信している。

26 年度に完成の予定であった 20 周年記念誌の作成が諸般の事情で間に合わず、27 年度中の完成を目指したが、ついに完成の運びとなった。

今後は、青樹会が村で、どのような支援や事業を行うことが可能なのかについて、意見集約し結論を見出さなければならない。

2017 年 5 月下旬に内蒙古への緑化ツアーを行いたいとの北京三友からの要請があったが、時期的制約もあり丁重に断った経緯がある。今後の展開については会社側、あるいは蔣先生とも十分に相談して、ツアーの催行の可否を検討する。

2.活動計画

活動計画は次の通り。

(1)イベント・打合せなどの活動

項 目	期 日	参加者数など	会報掲載
総会	5/27(土)		108 号(予定)
幹部会合			
2018 新年会			

(2)会報の発行

2016 年度の会報発行は 4 回であったが、記事の集まり具合、必要な情報が把握次第、逐次の発行を目指します。

3. 収支予算書(予算計画) 2017.4.1~2018.3.31

1.一般会計

(円)

区 分	金 額	備 考
前年度繰越金	365,459	
収 入	会員会費	120,000 40 名分
	募金	20,000
	受取利子	100
	緑化募金会計受入れ	465,000
	計	605,100
支 出	通信費	55,000 会報送付等
	会場借料	60,000 貸会議室 3 回×20,000 円
	雑費	40,000
	活動誌などの作成	475,000 冊子印刷 400,000 円 CD 作成 30,000 円 絵葉書作成 45,000 円
	同上送料	18,000 200 ヶ所×90 円
計	648,000	
収支差額	-42,900	
次年度繰越額	322,559	

2.緑化募金会計

区 分	金 額	備 考
前期繰越金	465,000	
収 入	募金収入	0
	計	0
支 出	一般会計繰入	465,000 活動の記録冊子作成のため
	計	465,000
収支差額	-465,000	
次年度繰越金	0	

(注)2017 年 5 月末日をもって、緑化募金会計を閉鎖致します。

4. 役員名簿(案)

1.会 長	西 敬史	自由業
2.副 会 長	押田敏雄 中村民夫	麻布大学名誉教授・東京農業大学客員教授 団体職員(事務局長)
3.事務局長(代行)	押田敏雄	
4.監 事	丸山和也 中村千由	丸山国際法律特許事務所所長・参議院議員 農政ジャーナリスト
5.評 議 員	神尾由恵 堀口恵子 石川和子 立野恵子 窪田定一 近田康二 押田明則	元イオン環境財団事務局長 東京農業大学客員教授 イラストレーター 会社役員 畜産ジャーナリスト 会社員
6.参 与	磯田隆弘 磯 日出夫 野上剛志	都立調布北高等学校教諭 磯動物病院院長 座間市教育研究所嘱託

3. 「記念誌」を読んで・・・✉

「中国内モンゴル緑化活動 21 年の軌跡」ですが、配布は会員、もと会員、その他、会の活動に協力をして下さった方々で、住所が把握している場合には発送を行いました。そのうち、感想や意見を寄せて下さった方が複数名いましたので、その全部、あるいは要約を掲載させて頂きます。

<木ノ内光子さんから>

おはようございます。ご無沙汰しております。本日、砂漠緑化記念誌が、届けられました。立派な記念誌のご発行、おめでとうございます。何もお役にたてず、私にまで、お心遣い、本当に恐縮して、おります。貴重な写真も拝見して、とても懐かしい思いです。本当にありがとうございました。

5月に親類のフランスでの結婚式旅行、帰国したら、孫たちの胃腸炎の看病、おまけに、苦手な子犬の世話と、テンヤワナンヤの日々を過ごしています。落ち着いたら記念誌を熟読させていただきます。



皆様方のご健康と、さらなるご健康と、御活躍をお祈りいたします。 木ノ内光子

<大岡滋子さんから>

『中国内モンゴル緑化活動 21 年の軌跡』をお送り下さいましてありがとうございました。少しずつ読ませていただいております。亡夫・興のことも 85 ページに掲載下さいましてありがとうございました。若い時から色々なこと…農村伝道でアジア学院に席を置いたり、台湾全土にキリスト宣教に行ったり、60 歳で獣医の仕事を終えて晩年は日中友好協会に席を置きながら中国語サロンを開き、また、青樹会のメンバーとして皆様とともに活動させていただけました。本人はたった一度の人生、自分の思う道を進み、悔いはなかったと思います。



青樹会活動に私が参加させていただいたのはただ一度だけでしたが、それでもこの冊子を手にとると、懐かしさはこみ上げてきました。地球環境問題にほんの少し触れさせていただいたことを感謝いたします。21 年間『ずーと』関わってこられた方には達成した感激もひとしおのことと思います。おめでとうございます。

この時期は、店頭においしそうなおんずが並んで、思わず手が出て、買い求めてしまいます。私たちが植樹したあのおんずの木々も実をならせていることでしょう。今は 108 歳でもほぼ自立の母とゆったり、のんびり過ごしながら

<https://www.kochinews.co.jp/article/49927/> (昨年の高知新聞 1 面に掲載された記事です。今年の春に故郷の和歌山県

御坊市に帰った時、55年前に高校で担任したクラスの教え子たちが30人も集まってくださり、お食事会が開かれました。もう彼女たちも73歳、74歳でした。）

29年続けてきました私のライフワークというべき生命問題を日々、サイトで更新しております。お時間のある時、サイトを訪ねていただければ嬉しいです。<http://www.japan-lifeissues.net/>

段々暑さが増していきます。皆様、お身体を大切にお過ごしになられますことをお祈りいたします。

感謝のうちに 大岡 滋子

<相田菜穂子さん>

ご無沙汰しております。お身体変わりないですか？ 青樹会から活動をまとめた素敵な冊子が届きましたので早速メールをさせていただきました。個人的に、思いの沢山詰まった活動でしたので、冊子が届いた際には嬉しさと、戸惑いが有りました。



思い返せば、当時勤務していた職場の院長のすすめで、興味本位で参加した緑化支援。今思うと笑ってしまいますが、テレビ等の情報だけで、中国は怖くて暗くて、恐ろしい国だと思い込んでいた自分。生きて帰って来れるのか？と、死ぬ覚悟で行ったのを覚えています。実際は、なんて楽しい国、人々(色んな意味で)なのでしょうね。影響されやすい性格な事もあり、ご存知の通りこれをきっかけに中国にはまってしまいました。2回目の参加では色々と相談に乗っていただきました。覚えていらっしゃるでしょうか？ まさか8年前の事だとは、月日が流れるのははやいですね。

中国人の良い所、悪い所を知った上で、今では中国人の旦那と、ハーフとなる子供を2人持つ母親になりました。毎年旦那の実家がある河南省もしくは近場の上海に帰省する事を目標としています。青樹会に参加していなかったらきっと今の私はいないでしょう。中国に対しても未だ恐ろしい国としか思っていなかったと思います。いつか子供が大きくなったら一緒に参加したいと思っていたので、活動が終了してしまったのは本当に本当に残念ですが、こうして私の中では形として残っています。

青樹会でのこの語り尽くせない経験が私の原点になっている事を改めて思い出させてくれる冊子でした。宝物にします。ありがとうございました。またみなさんにお会いできるのを楽しみにしています。相田菜穂子

<山本満枝さん>

丹精込めた20年の記録、わざわざ末端のものまでお送りいただきありがとうございました。懐かしく読ませていただきました。自分が参加して以来、時々あの種は芽生えたのだろうか、役に立っているのかどうかと思い出すことがありました。生協の国際交流の人たちとも話すことがありました。

いったい自分が何年に参加したのか、思い出せず、いただいた本で判明した次第です。江原さんの仲間で、あの時の交流会メンバーの最年長で皆様にいろいろ気を使わせてしまったものです。あら、こんなことをしたのだわと、自分の記憶の減退をかみしめています。



さっそくお礼のメールをと、アドレスを見て — ラインが上にあることに気づき人にあちこち聞いていまして、遅くなりました。このままで送信してみます。ありがとうございました。2006年夏の参加・神奈川生協国際交流会 山本満枝

<加藤 仁さん>

本日、沙漠緑化の冊子を受け取りました。患送頂きありがとうございます。お礼申し上げます。今日はつい先ほどまで下版準備がありましたので、まだ隅々までは目を通せていませんが、高校の英語の教科書で紹介されたり、冊子の中で各人の俳句が挿入されていたり、もちろん貴重な写真の数々もあり、非常に見応えのある本になっていました。

バラバラとめくっている時は、何故、杏の木なんだろう？乾燥に強いのか？と漠然と思っていました。巻末の方にあった解説で、種の中の杏仁が漢方として利用され高価に取引されるからというのを見て、なるほどと思いました。交通手段をはじ

め、加工技術や保存技術等が未発達だった時代は果肉の利用が難しかったのもわかる気がします。

「木」の下に、果実を表す「口」を組み合わせて、おいしい果実が実る植物を表したのが『杏』。私は食べ物の中でも『干し杏』がかなり上位に位置するほどに大好きで、もし私が死んだら棺の中は花でなくて、干し杏で埋め尽くして欲しい、とさえ思っているくらいです。喘息持ちのため、本能的に体が欲しがっているのかもしれませんが。そんな愛着のある杏の木の活着がうまくいけば、将来的に乾燥地帯の内蒙古ならば、トルコのように干し杏の輸出国になることも可能なのでは？と勝手に夢を描いてしまいました。ついでに植林へ行つたつもりになって駄句を…

今日(杏)植えて 実る日を待つ 恋杏(案ず)植林の 沙漠でかじる 干し杏
杏仁の 白さに負けぬ 心意気



植林事業は一段落となったようですが、交流を深めた現地の人々に植林の意義が根付いて、これまで植えてきた木々が丈夫に育つことをお祈り申し上げます。

以上、冊子受け取りのお返事まで。 株式会社 養賢堂 「畜産の研究」編集部 加藤 仁

< 齋藤広樹さん >

大変ご無沙汰しております。「21年の軌跡」を拝読させて頂きました。お送り頂きありがとうございました。わずかこの10年間だけでも会社の移転5回、会社再編による10社以上の合併という激動の渦中にある私にとっては変わらず同じことを継続するということがいかに難しいかということが身に染みており、青樹会の活動には心より敬服申し上げます。

少しずつ増えていく緑に心が洗われる思いで、ですが広大な砂漠を見るたびにいくらイメージの貧困な私にもその作業が楽ではないことがわかり、その活動にいつも感服しています。そして記事中に日立の森を見つけるたびにうれしくなります。



何もできませんがこれからも青樹会のことを応援しています。押田先生をはじめとした皆様のご健勝を心から祈念申し上げます。ありがとうございました。日立金属商事株式会社 業務管理部 齋藤広樹

(注:会社名が変わりましたが、以前は日立電線商事という社名で毎年、多額の寄付金を戴いていました)

< 岡田裕子さん >

梅雨と呼べるでしょうか。半端な天候が続きますが、そんな折、「21年の軌跡」が届きました。大変な力作で、全く手伝えなかったことを申し訳なく思っています。内蒙古と青樹会との出会いは、それまで何故か苦手意識のあった中国の全く別の顔を沢山教えてくれました。ドイツでの交通事故で傷ついた体が癒えても、心は何故かいつまでもウジウジしていましたが、それをすっかり吹き飛ばしてくれたのです。又、その出会いがなければ、中医学への関心も持てず、整体院を始めようとは思いませんでした。また、2年前には事故で傷めていない左脳に今度は脳梗塞をつくり、入院もしたりしましたが、再度しぶとく復活し、秋に17年目を迎える小院を細々ながらやっています。以前、記憶補助用に描いたイラストに彩色までして戴き嬉しいです。私自身、2Fの窓際にプリントを貼り、時折、天の南先生を思い出しながら、のんびり香功しています。



今の感動と感謝をお伝えしたくペンを取りましたが、乱筆をどうぞお許し下さい。

有難うございました!! 2017.6.12 ゆう整体院 岡田裕子

(注:岡田さんからは手書きの書簡を戴きましたが、押田が勝手にパソコン入力しました)



記念誌と絵葉書セット、まだ少しですが残部があります!!

記念誌と絵葉書セット、まだ少しですが残部がありますので、必要な方は遠慮なく、事務局・押田までご連絡をお待ち申し上げます。

4. 「2018 年映画鑑賞会」と「新年会」のご案内



12月も残すところ僅かになってきました。押田が原稿書きや雑事に追われて会報の作成が滞っていました(すみません!!)。実は、記事も集まっていません・・・

2018新春も中国映画(正確には台湾映画)の鑑賞会を企画しました。日時は新年会と同じ日で、新年会の前に映画鑑賞会を開きます。

記

日時:2018年1月13日(土) 14:00~

場所:八重洲倶楽部(第6会議室)

八重洲倶楽部

住所:東京都中央区八重洲 2-1 八重洲地下街中 1号

Tel 03(3275)0801 Fax 03(3275)1106

解説

“台湾のアカデミー賞”金馬獎 2 冠獲得! 台湾全土に大きな感動と共感を巻き起こし、異例のロングランヒットを記録した“お葬式コメディ”が、いよいよ DVD リリース!!

突然訪れた父の死。その葬儀を巡る喧騒と混乱、そして…。『父の初七日』は、古い風習に戸惑い、翻弄される家族の様子を独特の空気感で描き、笑い涙の狭間に家族の絆の尊さを浮かび上がらせた良作である。日本人にも郷愁を感じさせる台湾の風景に重なる、数々のメロディと鮮やかな色彩、葬儀にまつわる独特の風習の厳粛さと滑稽さ—それらが織り成すコントラストが本作の魅力と言える。当初は小規模な公開だったにもかかわらず、ロコミで話題が広がり、その熱は台湾全土へ飛び火。近年類を見ないほどのロングランヒットとなったばかりか、台湾金馬獎をはじめとする映画祭でも高い評価を得た。

あらすじ

突然の父の危篤の報せに、台北で働く阿梅(アメイ)は故郷の病院へと駆けつける。しかし、病室に横たわる父は既に息を引き取っていた。母の死後、男手ひとつで自分たちを育ててくれた父の亡骸に付き添って、阿梅と兄の志(ダージ)は自宅へと戻る。やがて、道士でもある叔父・阿義(アイー)の指図で、伝統的な葬儀が執り行われることになり、従弟の小庄(シャオチュアン)はその成り行きをビデオに収めることを決めたのだ。暦によって決められた野辺送りの日は7日後。父との様々な思い出に浸る間もなく、阿梅は古いしきたりに則った“お葬式”に追い立てられ…。

映画鑑賞会後の懇親会(新年会)については、八重洲倶楽部の近隣で開催することになりますが、現在、樋川さんが検討中です。決まりましたら、各位に場所、会費などを連絡する予定ですので、暫くのご容赦をお願い致します…なお、総会、懇親会ともに参加者の人数把握を行いたいため、1月9日まで、押田あてに連絡を頂ければ、幸いです!!

5. 会報の原稿を募集しています

最近、気になること、私の提案、中国情報、その他なんでも原稿をお寄せ下さい。あて先は押田(oshida@azabu-u.ac.jp)へ、メールで戴けると幸いです。なお、メールが困難な場合には fax(048-664-5884)か郵送で(331-0825 さいたま市北区榎引町 2-574-2 GA 大宮 111号)押田敏雄までお願い致します。